


子
名
考
缺

中村俊定文庫
文庫 18
256



元文三曆戊午の春 

中の二日東武河崎に茶店を

とす一日十百約を興行を

そとせしとすあつたの関とす

十人お判候とすお作者の

傍方判者お鈍銃ともお念

とありあつたしはるはりて

お勢の志はつたはるはる

の傍ありてはるはる席に

あゝ新なるものなりと
いふも一からいふものなり(昔)
昔よりいふものなり(昔)
吾もいふものなり(昔)
一掃の如きものなり(昔)
一掃の如きものなり(昔)
一掃の如きものなり(昔)
一掃の如きものなり(昔)
一掃の如きものなり(昔)
一掃の如きものなり(昔)

人間北省成南^ノの地乃
是ハ北^ノの地乃^ノの地乃^ノ
あり唯^ノ当^ノ世^ノの^ノ英雄
有^ノ怒^ノ惶^ノの^ノ如^ノの^ノ一^ノ思^ノ
あゝいふものなり(昔)
抑^ノ何^ノに^ノ建^ノつ^ノら^ノく^ノもの^ノなり
吾^ノも^ノい^ノふ^ノもの^ノなり
必^ノし^ノも^ノい^ノふ^ノもの^ノなり

みる毎に
 句の
 背越
 松
 堀
 志
 阿

槐菴主人
 考心



沾洲を師生第一日あるの宿真
 仍して奇異の傑力と量一の僧
 徳とこれより幸にその秋とすけ
 故に一句をりてと一句は他の半
 とそのをゆくと此句平を人ありて
 正なるなり

一句歌仙

沾洲
 考心
 音域
 尾音
 湖十
 為唐

う
 吉野のうらまへにまはけく柳の上
 和雄
 真念 孝くまもく 忠くまもく
 存義
 子母のうらまへにまはけく
 有佐
 而く女 婦の女 忠くまもく
 旧室
 加減してあまの除く 西松の中
 晋阿
 初穂 孝の似合ぬも
 乾付
 埋火の付くうらまへの
 民所
 西六条の 塚のあり
 長鶴
 梅干の草も 忠くまもく
 平砂
 世知 忠のうらまへの
 貞山
 孝のうらまへの 忠くまもく
 末仲
 此國のまはけく 宗子仲る

名
 孝のうらまへの 権師のうらまへの
 祇丞
 孝のうらまへの 忠くまもく
 孝端
 孝のうらまへの 忠くまもく
 秋成
 刀 孝のうらまへの 忠くまもく
 平海
 孝のうらまへの 忠くまもく
 方角
 孝のうらまへの 忠くまもく
 穴倉
 孝のうらまへの 忠くまもく
 安士
 孝のうらまへの 忠くまもく
 橋川
 孝のうらまへの 忠くまもく
 牙英
 孝のうらまへの 忠くまもく
 超雲
 孝のうらまへの 忠くまもく
 百洲
 孝のうらまへの 忠くまもく
 渭北

西の雲に霞の袴子あられなり 奥貫
さりやき瘧き葉の翠の白子鷹
立也ー一氣にぬき 新馬り 木髪
とろとろと碎て 糠 粥 其川
右の名は井戸傍に 在る 沾山
と海常の酒子とこのふ 超波

此集このまじりてせんやの心ちを
先化と ありのまじりてせんやの心ちを
集りてせんやの心ちをせんやの心ちを

じふ一節や四もあつて千と秋 常仙

帰業翁

十百韻十評十點以上板書

いさるる 衣の袖あはれ

沾山 沾山 欠山 超波 尾岩 尾岩 尾岩 尾岩
浪石 多目安書 新し
田地 けが 書 の 七 七
織あひ ちが ちが ちが ちが
相扇

傾城とさぐり ちがり
撰居

盞の鏡子 ちがり
撰居

伽藍の ちがり
撰居

茵 ちがり
撰居

一口とがくして笑か松扇
遷喬
序山
超雷

新蓋煮物と末食と叫
沾礎

倉庫の傍子と押入れの月
雷壺

丸山小使とさ炬ちり
吹國

一松く海い物とるむらじ子
吹國

うささの影いくくを月影
序山

痛く馬と怖く罪のとも竹籠
露磧

男も帯の衣裾さかい一さ
巨淵

眼斗仕とる花のる
巨淵

雙六
露磧

巨燈
雷壺

蛇も
超雷

替女のまはめくす榎
木芝

わろふはは夕露
木芝

一七三
欠楠

一七三
欠楠

一七三
欠楠

一七三
欠楠

一七三
欠楠

一七三
欠楠

室の二階くまひく入船
白石の梢くしと海おろし

舟石

月の名も年貢ゆりさげ

浜礎

石の花表の施すの地
丸めりるざり旭の骨と折
皆ららさき澄の 喰めの

超雪
翠洞

下くも海の科や赤合
まごめりる世の山寺も判

迂雪

坂あし人のそ入通く燃あり

其川

流くもくろく日月の伽

露碇

七 壺くろく一すくろく母

飲洲

世の中おぶらるる倒り

之白

中一切根津のる

巨淵

事觸らるる入るる禱

千億くあらしあらし

玉帯

まの日はあらしあらし

大澳

らきとわふとくりる日月

小穴伸るる反りの秋は風

比國

踊の古具居るあけ世

可達

大糸 山 欠 超 尾 倭名 菊 山
尾 欠 超 尾 倭名 菊 山
尾 欠 超 尾 倭名 菊 山
尾 欠 超 尾 倭名 菊 山

二百 約 荒の 布 巾 小 菊 英
麻 棧 法 師 母 の 喜 仕 事
欠 橋

橋 小 菊 英
橋 小 菊 英
橋 小 菊 英
橋 小 菊 英

入 あり と つ く 源 氏 物 産
枝 とう とう とう とう とう とう とう とう
序 山

小 判 小 菊 英
小 判 小 菊 英
小 判 小 菊 英
小 判 小 菊 英

項 子 小 菊 英
項 子 小 菊 英
項 子 小 菊 英
項 子 小 菊 英

店 小 菊 英
店 小 菊 英
店 小 菊 英
店 小 菊 英

何 小 菊 英
何 小 菊 英
何 小 菊 英
何 小 菊 英

世 小 菊 英
世 小 菊 英
世 小 菊 英
世 小 菊 英

四 小 菊 英
四 小 菊 英
四 小 菊 英
四 小 菊 英

小 菊 英
小 菊 英
小 菊 英
小 菊 英

山一 越七 有十 晋一 舟七
舟の如くけり路行舟小舟

之白

地蒸あつた海に波を打つ青椒

皮をむくはく機欄のまき空

雲羽

舟の如く舟を打つ舟の葉

精舌

強手いさねは琴もねをま

急病の如く寝るく因あ

治礎

舟の如く舟を打つ舟

万英

舟の如く舟を打つ舟

玉寄

若かりし舟の船固り意

茶酒おもしろくお淋し

赤花

舟の如く舟を打つ舟

万英

舟の如く舟を打つ舟

舟の如く舟を打つ舟

之白

舟の如く舟を打つ舟

毛川

舟の如く舟を打つ舟

舟の如く舟を打つ舟

舟橋

舟の如く舟を打つ舟

超雪

舟の如く舟を打つ舟

木芝

舟の如く舟を打つ舟

舟の如く舟を打つ舟

撰居

舟の如く舟を打つ舟

橋山

舟の如く舟を打つ舟

舟の如く舟を打つ舟

舟の如く舟を打つ舟

澄屋はり山者一も二苗三の一つ七れ一く一 玉寄

粟生一美一く一換一り一能一 汰礎

不一り一合一れ一く一岡一い一ま一は一 汰淵

河子一重一拂一一一葉一の一つ一り一と一ま一あ一か一 流石

親一の一ま一あ一入一友一を一逢一い一小一紋一を一て一 迂鶯

新一宅一の一二一階一の一あ一ま一て一あ一く一出一た一 橋山

廻一船一よ一あ一常一乃一り一も一も一一一通一り一 橋岳

揚一ら一し一射一ぬ一あ一の一あ一れ一へ一落一 程祥

碇一を一取一か一ス一澄一ひ一し一た一れ一 岸山

筆一と一唯一唯一の一向一へ一開一き一身一 伏海

名一不一見一得一く一口一り一淋一し一き一 玉璣

後とつかきんくく結とまへ
五山十尾有十五常
 智めはくまめのかまきつり物
五山十尾有十五常
 物くはりそは標まの 大礫 巨石
 巨洞

球の厚さ日蝕の著
 竹名の昔らあつる比叡山
比叡山
 額の高はくまきく海ぬ
舞鶴

海とくはくまきく海ぬ
舞鶴
 豆腐と茶をて通る石垣之白
豆腐と茶をて通る石垣之白

あ門と怖く物るるま訓棹
可英
 志とけし形をく物ま
紙北

佛の道はかくす傾城
欠橋
 葉候の中ふ必 汲水 大漢

糟の匂りや素るの 新米
素足
 負より方の公事者 櫻山
櫻山

山^一の肩と^一報^一く^一見^一り^一子^一 山^一肩^一報^一見^一子^一 青^一

くらくおの拍子木火打石

明^一方^一子^一降^一面^一子^一 明^一方^一子^一降^一面^一子^一 舞^一鶴^一

刺^一そ^一も^一多^一人^一 刺^一そ^一も^一多^一人^一 世^一と^一閉^一子^一 世^一と^一閉^一子^一 翠^一如^一

あらの面影のなごり鐘目

時^一の^一勢^一仁^一入^一お^一り^一る^一子^一 時^一の^一勢^一仁^一入^一お^一り^一る^一子^一 序^一山^一

ふ洞はるりまきこ相

山^一の^一勢^一仁^一入^一お^一り^一る^一子^一 山^一の^一勢^一仁^一入^一お^一り^一る^一子^一 標^一山^一

おの^一勢^一仁^一入^一お^一り^一る^一子^一 おの^一勢^一仁^一入^一お^一り^一る^一子^一 標^一山^一

下^一の^一勢^一仁^一入^一お^一り^一る^一子^一 下^一の^一勢^一仁^一入^一お^一り^一る^一子^一 標^一山^一

縁^一と^一さ^一ま^一う^一 縁^一と^一さ^一ま^一う^一 北^一園^一

河^一分^一と^一さ^一ま^一う^一 河^一分^一と^一さ^一ま^一う^一 標^一山^一

中^一の^一勢^一仁^一入^一お^一り^一る^一子^一 中^一の^一勢^一仁^一入^一お^一り^一る^一子^一 相^一扇^一

代^一の^一勢^一仁^一入^一お^一り^一る^一子^一 代^一の^一勢^一仁^一入^一お^一り^一る^一子^一 青^一

小^一判^一 小^一判^一 子^一標^一

病人^一の^一母^一 病人^一の^一母^一 近^一島^一

迷^一子^一と^一呼^一び^一 迷^一子^一と^一呼^一び^一 近^一島^一

一山七毛 七山十超 尾有 七毛 七毛 九毛
城下の影いけうん

不隠

四角 四角 四角
つらつらの地はあつち干太根

序心

一七 一七 一七 一七 一七 一七
後書とくまより年一志

至川

一 一 一 一 一 一
後書とくまより年一志

之考

一 一 一 一 一 一
後書とくまより年一志

宰町

三 七 七 七 七 七
命もつよし 治治の 古月

治瀾

又三 又三 又三 又三 又三 又三
そわくとく角力とらん子と尊と減と

不隠

一 一 一 一 一 一
内一病とくも所をさつと心

百英

三 七 七 七 七 七
白髪女とくつらと赤糸の法起く

赤糸

一 一 一 一 一 一
赤糸もつらと赤糸もつらと赤糸もつらと

壺籠

一 一 一 一 一 一
墓のふもつらと赤糸もつらと赤糸もつらと

青と

三 七 七 七 七 七
酒臭い黄昏時のとくつらと赤糸もつらと

壺籠

面白や急なる春の月
十休 山 天 七 題 毛 七 首 一 切 十 長 七 帝
勢 功 一 七 題 七 毛 七 首 一 切 十 長 七 帝
程 祥

祈 証 之 流 々 々 十 二 月
如 之 七 休 一 七 毛 一 十 七 位 一 七 袋

好 く 呼 ぶ 呼 づ 呼 づ の 聲
松 橋 之 下 殿 の 中 果 按
迂 鶯

何 者 亦 不 知 ぬ 馬 笑
向 之 陰 影 二 三 能 一 龍
俗 の 多 少 世 一 葉 葉 結
壺 竜
又 山

水 雉
依 號 の 毛 麻 七 一 七 毛 一 十 七 位 一 七 袋

親 の 身 体 と 居 る こと
泡 盛 一 七 毛 一 十 七 位 一 七 袋
木 芝

側 之 下 一 七 毛 一 十 七 位 一 七 袋
櫻 田 一 七 毛 一 十 七 位 一 七 袋
可 速

柳 之 下 一 七 毛 一 十 七 位 一 七 袋
煙 掃 一 七 毛 一 十 七 位 一 七 袋
迂 鶯

日 あり 一 七 毛 一 十 七 位 一 七 袋
春 之 下 一 七 毛 一 十 七 位 一 七 袋
岸 山

強 氣 の 初 七 毛 一 十 七 位 一 七 袋
壺 龍

海 老 抱 子 冬 七 毛 一 十 七 位 一 七 袋
教 子

今七の七芳七と七ゆ七め七の七福七買七ひ七 迂七鳥七

け七清七水七の七降七野七の七ふ七ら七り七 吹七國七

業七屯七の七者七の七自七の七嘴七茶七 欠七備七

津七強七へ七と七一七滴七の七と七降七て七 吾七友七

文七覚七の七後七の七泉七の七 標七山七

世七の七場七の七志七の七心七の七 梨七鶴七

礼七名七の七心七の七思七の七 王七川七

揚七屋七の七法七事七の七心七の七 吹七國七

胡七蝶七の七心七の七心七の七 福七祥七

候七候七の七心七の七心七の七 吾七友七

今七の七心七の七心七の七 吾七友七

候七候七の七心七の七心七の七 吾七友七

山崎のついでに
十日のついでに
十日のついでに
十日のついでに

老所のついでに

うすついでに
三年とついでに

三年とついでに

老所のついでに

恨もついでに

あついでに

物入ついでに

城ついでに

坊友ついでに

本ついでに

兵法ついでに

須ついでに

法佛ついでに

世の上ついでに

須ついでに

法佛ついでに

世の上ついでに

須ついでに

法佛ついでに

世の上ついでに

須ついでに

法佛ついでに

世の上ついでに

須ついでに

法佛ついでに

神奈川の袋は余る七
起雪

楓の味は雪の古
次橋

百騎の上の馬
沾瀾

刃地のやうな大判
沾瀾

赤布の糸は
素尾

子房の世のみら
撥居

箱番と香皆大
玉奇

油も志八の
撥居

砥石の石ころ心
新心

六休 十 五 山 三 七 起 二 尾 三 者 五 何 六 半
津 捌 宮 七 七 起 二 尾 三 者 五 何 六 半
雪 亭

小 雨 の 少 少 の 行 々 出 炎
男 三 八 十 又 二 七 又 三 七 七 七 七
聖 羽

内 庭 へ と 夕 暮 の 光 を 透
湾 の 瀬 々 々 様 々 々 様 々 々
福 祥

時 分 と 通 け け 様 々 々 村
後 武 夫 の 破 蕪 の 卯 子 首 一 二
壺 籠

う さ ぎ の 来 々 々 々 々 々 々 月
ぬ 豆 腐 子 々 々 々 々 々 々 々
起 雪

誰 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
過 鳥

枝 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
裸 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
木 芝

春 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
子 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
櫻 花

相 火 桶 抱 々 々 目 々 々 々 々
移 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
和 堂

竹 の 蔭 を 着 の る 吉
懐 の 子 々 々 々 々 々 々 々 々 々
雪 亭

小 便 々 々 々 々 々 々 々 々 々
古 寺 の 回 々 々 々 々 々 々 々 々
玉 桥

五_七^山 一_一^段 一_百^塔 七_七^方 一_七^寸
置いぬりの更なる法連釈 雷亭

七_七^年 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一
一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一
系瓦

六_六^六 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一
玉所

七_七^百 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一
玉所

七_七^七 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一
玉所

一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一
玉所

一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一
玉所

一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一
玉所

一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一
玉所

一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一
玉所

一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一
玉所

一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一 一_一^一
玉所

不情^一山^三欠^三起^二名^三瑞^七七^七
白^十物^十子^七 京^九瓦^七

ゆき^七し^七や^七ふ^七松^七林^七の^七片^七
笑^七子^七ふ^七片^七の^七や^七ら^七る^七言^七う^七海^七 迂^九為^七

牛^七も^七車^七も^七腐^七る^七坂^七口^七
造^七葉^七の^七礎^七も^七ふ^七ま^七ら^七喜^七清^七も^七 其^九川^七

ひ^七ら^七ら^七る^七路^七の^七人^七通^七
時^七分^七も^七正^七に^七三^七中^七の^七寺^七 序^九山^七

は^七つ^七ら^七る^七年^七の^七ま^七る^七る^七
出^七菜^七の^七味^七も^七一^七一^七 青^九菜^七 色^七名^七

今^七御^七が^七と^七可^七ら^七す^七 娘^七君^七 玉^九寄^七

堀^七一^七つ^七の^七甲^七斐^七あ^七さ^七男^七の^七力^七 飲^九酒^七
暮^七の^七暮^七ら^七り^七る^七弁^七
暮^七の^七暮^七ら^七り^七る^七院^七 小^九山^七

か^七か^七き^七け^七の^七や^七ら^七る^七 因^九雨^七 飲^七酒^七
か^七か^七き^七け^七の^七や^七ら^七る^七 因^九雨^七 飲^七酒^七

ふ^七浪^七名^七の^七木^七と^七葉^七は^七日^七
系^七の^七恨^七は^七い^七ら^七る^七の^七半^七 大^九漢^七

煙^七を^七吹^七き^七て^七は^七く^七る^七 大^九漢^七
煙^七を^七吹^七き^七て^七は^七く^七る^七 大^九漢^七

菜^七の^七葉^七と^七子^七の^七情^七を^七思^七て

毛の牙は急とらつて地蔵の
秋忍の何れに佛のやらん
橋石

山のさうら玉葉のまをさへ
かろの尻くまをせの巾連枝
羽扇

伯母のしらふまの奉とる
かろの伯母のしらふまの奉とる
橋石

梅の側へて後毎をよる
かろの梅の側へて後毎をよる
共川

とらつて地蔵の尻は振るは
唯妙のさつくと吹
橋石

佐人のあせりてあまの嘆
力のう人あせりてあまの嘆
欠橋

首尾のあせりてあまの嘆
首尾のあせりてあまの嘆
捨野

馬のあせりてあまの嘆
馬のあせりてあまの嘆
羽扇

軍のあせりてあまの嘆
軍のあせりてあまの嘆
壺籠

短いのあせりてあまの嘆
短いのあせりてあまの嘆
壺籠

糸のあせりてあまの嘆
糸のあせりてあまの嘆
大漁

帳のあせりてあまの嘆
帳のあせりてあまの嘆
欠橋

表向娘ふたむすこ山十はみ一尾三く五新地七海七大漁

確三ハ三結一く一く一巖一罫

塙三の町一一一の一る一勢七撰七居

全三上一に一地一と一踏七仕七ま一く一そ一川

纏三も一の一喉一の一低一く一る一笑一ひ

手三と一名一さ一わ一り一家七の一さ一う一つ一可一積七客

竹一ハ一根一を一束一ゆ一り一滑七され七撰七居

情一約七る一と一下一筋一く一く一か一比一撰七居

也三務一も一二一度一見一る一り一な一ま一云一撰七居

そ一う一も一所一の一名一好一よ一玉一を一敷一百一英

智一く一纏一と一と一中一者

流一入一小一判一と一投一く一悲一止一能一解

百一負一り一云一は一よ一め一寸一見一の一視一能一解

為一業一ハ一勢一の一落一い一也一業一又

これ一花一を一勢一の一勢一の一勢一の一勢一

下一算一な一ら一く一良一い一袖一を一童一流

孝一の一と一ふ一と一張一く一と一是一を一り

子一所一病一を一と一う一る一を一力一の一う一人一可一達

何一由一勢一の一勢一の一勢一の一勢一の一勢一

二一百一十一の一印一ハ一三一棟一ハ一筆一町

おし柳はさきならは
屋のあひ女を人せなり
遠くけ者らへ来く買ふ
近島

おへぬいあおお
おとあひあひに中流
之白

川部の肩くすのきり
青く

らこくりは朝のうさめ
之白

新茶干しらのあま
青く

後の一信報屏の鏡
飲海

版ぐさのさき人のあ朗
急伝

お撲場よりあひあひ
青く

宴へ似る茶煮し
青く

おまそのあひあひ
青く

娘のさきこもるく
伝祥

時形や夏ぬ羽のなまへく
 第桶ハ通毒のと名付
 新作の鼓子摺や枯木賦
 多子出羽のちとそこ松
 珍角の強きう母や葉のむ
 多科よたつらうさうあは月
 神ぬきをき新や急筆作
 非南やさこ入ひらり
 裳下と紙流スヤ 過彌
 根斗尻り一本花や折ぬを
 新やちよ龍心とを難
 藤いおろなむのら流下

尾管
 羊子
 存義
 氏丁
 長鶴
 米伴
 平酒
 勇名
 穴屋
 安土
 梅川
 万葉

初より二十日集のころの日
 浦江の鼓新しき日松の
 一重よむとん徳く強き新

真貫
 沼か
 子鷹

春日のつれきや初の上まこ
 多子まこくいねえ及子信
 吹えのむい流り 葉のむ
 半拍やまのむせらぬ月書
 馬場のみやゆく少和まき
 水江いこまをたり新の月
 折つけよ日の守事知もな
 小男為やまの 新とたてえ

越波
 湖十
 和雅
 有他
 旧室
 晋阿
 平砂
 新丞

葺物や此の潜葺の中
は巾や魚鱗日新その秋
刈田吹ゆる力の韻
草市や曉起の袷
町のやねえを 月のね
多良の巻物出ると
可生 兼川 本坂

座那仁建連御事
予うわのちるも
わうと此集
芳中
はら
そふ
予う
ぬれ
そふ

智永之千文八百本
帝仙之抜書千句

こり揚や玉持ぬも 教志
刈干す村の夕やけ
厚子のいそく海と
いれは 鶴の國
氣けいし神の
松時斗と耳へ
菟山よ八重
清へ集油と
大海のあし
茶袋のい

可生
常依
長鶴
可生
可生
可生
可生
可生
可生
可生
可生
可生
可生

更ハ鷄リ裂衣ノ前ハ毛
村便ノくつき山椒ノ皮
毛鷄

歌心

帆柱も海心湊や丸裸
綿俵もぬくまぬまぬ
麦めもぬくまぬ軍よて
ぬいよそらぬい主自ぬや
月の影もぬくまぬ
舟板もぬくまぬ
半欠もぬくまぬ
強うとぬくまぬ

馬光
首光
日光
日光
日光
日光
日光
日光

赤か情もぬくまぬ
百萬斗もぬくまぬ
木杓もぬくまぬ
舟もぬくまぬ
むらもぬくまぬ
是もぬくまぬ
誓もぬくまぬ
いもぬくまぬ
能もぬくまぬ
くもぬくまぬ
人申もぬくまぬ
物もぬくまぬ

日光
日光
日光
日光
日光
日光
日光
日光

花中〜とてなまるともこの表へ
 春〜とてなまるともこの表へ
 大務の傳はるる〜とてなまるともこの表へ
 本橋の肥瘠 何れこゝろ
 再子出人の深〜とてなまるともこの表へ
 春〜とてなまるともこの表へ
 志やんをさるる〜とてなまるともこの表へ
 つま〜とてなまるともこの表へ
 怖〜とてなまるともこの表へ
 目〜とてなまるともこの表へ
 新米の〜とてなまるともこの表へ
 あり〜とてなまるともこの表へ

花中
 春
 大務
 本橋
 再子
 志
 つま
 怖
 目
 新米
 あり

痛〜とてなまるともこの表へ
 驚〜とてなまるともこの表へ
 情〜とてなまるともこの表へ
 鼻血止んと〜とてなまるともこの表へ
 当世のち〜とてなまるともこの表へ
 心〜とてなまるともこの表へ
 心〜とてなまるともこの表へ
 心〜とてなまるともこの表へ
 心〜とてなまるともこの表へ

痛
 驚
 情
 鼻血
 当世
 心
 心
 心
 心

平林庵
 花中
 春
 大務
 本橋
 再子
 志
 つま
 怖
 目
 新米
 あり

平林庵
 花中
 春
 大務
 本橋
 再子
 志
 つま
 怖
 目
 新米
 あり

森精く入木の産を^つまき石
 陣雨くの月如く
 濃折半し如く平れり
 厚なる居如くもたれい
 六つと人の僻も柄や
 くのめや取め 夜の清き
 礼物く産ス 筆一かけ
 夕やと^しい^との^りい^りん
 四年柄如く^しい^りん^の下
 舞も^しい^りも 柄も利りり
 鶴 而 仙 鶴 而 仙 鶴 而 仙 鶴

影心

舟中(とう)も強き時旬か
 槽の烟如く横らる村
 携人のゆり、扇如く
 書き巻の女如く日に新こ
 前妻の如くきる窓の月
 持姫の如くや扇の如く連
 くの尻志^まな^なね^い夕^き子
 吉下^の下^の如^く里^へ張
 くのや^らら^ら中^をめ^ん
 如^く帯^とし^いる^人
 くの^と帯^とて^補扇^の如^く
 大^にち^りる^子
 鶴 而 仙 鶴 而 仙 鶴 而 仙 鶴
 舟石 義雄 飲洲 老臣 室帯 遊觀堂

壻川とよみ車の裏と
 紫や鞠のよとるり
 月ハあゝ離ハあくと
 小の程と惚とをの宴
 呼はぐやふふははは
 三海素類とやとらう
 並のよき村おと子と書お持
 而うと先作殿へまつらう
 小杉一 糸日何よたも心

壻 海 素 類 三 並 而 小
 壻 海 素 類 三 並 而 小

地氣を達とまわすくくくく
 清のよとくくくくくくく
 若くくくくくくくくく
 鯛壻の村へくくくくく
 核相のちもくくくくく
 神のちめくくくくくく
 か奴屋目よくくくくく
 か子ろくくくくくくく
 日の中ハ夜とかともくく
 押由られくくくくく

地 清 若 鯛 核 神 か か 日 押
 地 清 若 鯛 核 神 か か 日 押

常車 宝玉の三子予と云々の歌
或日 赤子持てて三子の勢なりとけり
然るに 櫻屋の三子持て一集（八人
と云れけり）幸に輝きしとて信
連ふるといふ

是づく是も芳所一帯の元 泰葉
幕跡く 規くうらひす 常車
多葉屋の電の柄も是葉で 宝國
他の持てたる他所の 常車
又も何よりなる舟のまじく 常車
はささやうらる 常車 一本
熾年のとけりぬも 常車
中へささくゆく 常車の玉滴 常車

櫻雨亭

懐ねる鳥の多し君の常車
簾おしお小ふれとて常車
吾宗い子葉のまじりぬの常車
物ささく日い 常車の常車
さささ南の常車とて常車
常車い力の常車とて常車
月つ常とて常とて常車
塩湯とて常とて常車
常車しあまかから常車
常車いしあまかから常車
常車いしあまかから常車
常車いしあまかから常車

十

あまのなるかろのねほる
あららるる揚梅の桶
大神系中へ獲る魚を吹
先一妻のるおむぎ敷
世ついで妹のやぶるゆきも
換好まらさるる調子
月斗ねの時をくぼくして
とまるとしうたかへ
温純好きはふれいぶるこ
障の難く急いふい分
眠いとさうくくうかめ
と夏のほほい思ふまへ
車 車 車 車 車 車 車 車 車 車

大鹽菰の葉よぬをく
日如くお母の筆も張
人望く北地平野のむき
まよあくく白き竹の根
車 園 車

歌仙

釣仙舎

白葉のそよ風の葉よ叶くわ
頃と色きたる葉よきの如
あつ子のふらふら海のさ
海へしる子のささりたり
舟葉の管くこゆる船の月
とくと見えり 関東の松
琴 羊 共 舟 越 香
呂 素 鶴 鏡 香

ち刀もらひの場忠臣のまゝに
 西より東へとのり上り
 参る鳥曲の千本と路のゆがめ
 入あいの響く響く人の村
 地あやめをいれとをさう
 大住生か路の書けし
 只い居ぬる山三信源三信
 隣も響く響く 舞の舞
 昔あくくくくくくくくくく
 ことりの響く子とらよあ
 他地のより響くくくくく
 葉つの中おるまきくく

紋書
 舞
 信
 昌
 響
 素
 替
 後
 者
 後
 者
 素
 後
 者
 素

打たるる浪の素は橋をり
 只い花流も陣まのまゝ
 僅らる海よまにされし候し
 口お内くくくくくくく
 太左小舟中の書け
 素は流るる素のうら
 ともくくくくくくく
 ぶくくくくくくく
 粥持ちよる麻も和舞く
 響くくくくくくくく
 身燈の響くくくくく
 弱い徒控の居くくく

素
 者
 後
 者
 素
 後
 者
 素
 後
 者
 素
 後
 者
 素

運師をい信ふた上と羨く
 立子をもく門杉は音
 物使在ス、如くかごゆり
 破と棧橋の可如 付
 花は香の一短瓶の啼て
 旅のちかきよりふれのを
 素 音 昌 仁 鶴 後

孤信

湯上よ後の汗あり秋は月
 夕と匂ふ小車のみふ
 海辺等々をく推の雲の縁て
 如く泉石のゆれ流るる
 理達 帯記 うさ 園

轉るる風の吹くを布とけ
 不地くももりくとりか
 花のそをを多く名王子
 くのく音よむのふ橋極
 たりと梅橋極うくのそ花
 雲を斗い 地をもち
 如く報く旭のうよふ茶
 うらつを合ふくやのよ入る
 去るのそまの結橋中流て
 素者の友いゆこま瓦あり
 虫の鳴る四の宿こつ虫の科
 雉をくてもくふくとゆり
 可達 和志 蒼苔 三受 干籠 齋南 可久 可久 可久 可久 可久 可久

三浦くもあ田へ入る者の目
鞆疑しむるにけのよ夏
生ナつらう葉は下陣の隅の中
波阜のむ糸の目と何と切
卯をよとやうなるる人斗
沖の鶴毛は大きなる
路のぬかやふ強て師をく
右好居に頼く人々
とあふまるとまはくは後編
袋のうに火 悟くらり
何のうの走せからよこんと鳴
猿坊屋の角カもく
うも

智南
暮昔
三交
可久
理を
うも
千就
智南
可連
三交
暮昔
うも

そのはものつ鏡はへねは月
しものふと信古の岸
筆葉の海を名点て南と入
味坊の羞うなまをくいぬ
機くも張るもむ纏ちん
泣強法いの中くく
世は人のよまあつての
現るくもも純きものこ

三交
千就
智南
理を
可久
和を
暮昔
可連

いそいそいそいそ

あつちいそいそいそいそ
いそいそいそいそいそいそ
いそいそいそいそいそいそ
いそいそいそいそいそいそ

可連
智南

鴨の吐く水も水列く
 何虹
 枝珊珊瑚珠の類と本にあり
 何南
 上戸の板の裏格と今好の月
 和主
 とよりあともか川舟
 千説
 舞よか娘よあうもあうこも子
 可迷
 強くまらん子 教へる位
 山更
 山宿持老子 阮の酒味守
 園
 甲とわいここのあじうもき
 何虹
 朽のきともいづ 額のつと也
 何南
 三反三取 忽し 極へ
 何南
 くれれ男の内やとらるゝ十一味
 養善
 おおと立 浮き流せしこが 意
 可金

喜新日月 楠社の二階 腰一
 可久
 地震もゆるげ 籠り馬こ
 何南
 為房の隠れ 雨も木の陰
 何南
 後々もあまの 柱のあしむ
 何南
 早杯のともゆり 表はわりの
 何南
 湯つけのち 漆を 漆い
 何南
 黙とくく ちのけり 鹿鹿浮
 何南
 知何しきまの 日如えり
 何南
 隆中約と 能い
 何南
 毛角いんの 知れ 黙れ
 何南
 砂舟や 毛では 豆腐
 何南
 水の瓦一ら 女口 貫目
 千説

ハ寸ハ分ハ山のよき女を
 江戸のゆりとりとてのこ
 早川の女日照月見の松
 魚想とてげの柳の春
 驚筑とてけ敷感甚し
 へい 高き 終るといふの
 何れに所何れの名と結
 大坂のりのを智くさ
 集 徳は仕名のやまも
 葉の枝短は凡し 何れ

菫葉
 現玉
 山更
 糸因
 可久
 糸衣
 高南
 山更
 何れ
 千龍

結力
 004
 14
 220

